

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		「数学への関心・意欲・態度」を向上させる手だて	「数学的な見方や考え方」を向上させるための手だて	「数学的な技能」を向上させるための手だて	「数量や図形などについての知識・理解」を向上させるための手だて
導入	<ul style="list-style-type: none"> 教科書・ノート・問題集等の授業で準備すべきものがそろっているか確認する。 本時のねらいが明確になるように板書する。 本時の学習内容に関連するような身近な話題に触れ、興味・関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 実生活の具体的な場面において、数学が使われている具体的な例を取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項との関連について整理し、予測を立てたり、考察したりすることができるようにする。 視覚的に思考の幅を広げる教材の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 関連する既習事項のうち習得すべき技能が身に付いているか小テストなどにより確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な用語や既習事項について、振り返りの時間をとり、確認する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 多種多様な考え方が出るような発問を工夫する。 話し合いや、発表の際に、相手の意見をよく聞くことや順番や時間を決めるなどのルールを決める。 机間指導では、一人一人の理解の状況を把握し、適切な助言やアドバイスをすることで考える「きっかけ」をつくる。 板書の仕方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での学習内容に関する発言や行動等を観察したり、ワークシートやレポートの作成、発表の様子について、評価基準を明らかにしながら生徒に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な事象について、数学のよさに気づき、筋道を立てて説明できるようにさせる。そのために、考える時間を十分にとり、班での話し合いや発表を通して、自分以外の考え方にふれ、新たな気づきによって思考力・判断力の向上を図る。 発問を工夫し、思考する糸口を見つけやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いや発表により、表現力の向上を図る。 教科書や課題プリント作成により、技能の向上を図る。 小テストを実施し、結果を分析することで授業改善に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートには板書したこと以外にも、必要なことを書かせることや、わかりやすい表現に変えて説明書きをさせ、家庭学習で、授業の復習ができるようなノートづくりを指導する。 定期的なノート点検を実施することで上記のことを確認する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容について板書にまとめる。 次の授業で扱う内容について予告して、予習できることがあれば指示をしておく。 教科書の問題量の少なさに対応するため、副教材プリントを作成し演習量を補う。 	<ul style="list-style-type: none"> 次時の学習内容について関心を持ち、家庭学習で予習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容について発表したり、レポートの作成をしたりさせる。 応用問題に取り組めるよう数学の見方・考え方を深める助言を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> 式やグラフに表すこと等について理解の度合いを測る確認テストを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 考え方や考えた過程について振り返りの時間をもつ。